

NPO法人 千葉を美しくする会

年2回発行（1月1日・7月1日）

発行責任者 長谷川昭次

編集担当者 石井 和美

発行所 NPO 法人千葉を美しくする会

〒273-0005 船橋市本町6-21-16（日本企画株内）

TEL：047-426-0026 FAX：047-426-6071

URL：<http://www.chibao-uthukushi.sactown.jp>

この号は春特集といたしたいと思います。

会報第21号春の特集は、次のような内容でお届けします。

入船中学校を美しくする会について

こんにちは。

平成27年11月4日（水）、世話人の長谷川さん、大塚さんと共に入船中学校の緒方校長先生を訪ねました。訪問の目的は恒例の春季の月例会のお願いでした。校長先生は何度かこの会に参加されていましたし、掃除に学ぶ会の主旨もご理解いただいていたので、快く会場をご提供いただくことが出来ました。その後、たまたま行われた、剣道部の合同合宿での会話で、トイレ掃除のことが話題になり、2月のトイレ掃除に坪井中学校の剣道部も参加することになったとのこと。掃除が取り持つご縁とでも申しますか、不思議な巡り合わせに意味深いものを感じました。そして掃除実習日は部活中心の生徒が82名、先生方、PTA、リーダー、サブリーダーを含めて総勢142名の参加とバランスのとれたとても良い大会でした。生徒たちの述べた感想も爽やかで、また機会があれば参加したいと述べていました。その上、石巻の被災者である阿部氏からも感想を頂き、校長先生や教頭先生のご配慮もあり、理想的に運営できた会だったと思います。

私は剣道部女子のトイレのリーダーを務めました。人数も5人ということもあり、和気あいあいと進めることが出来ましたが、剣道部員の一所懸命な姿に「貴女たちは間違いなく人間も技も進歩して上位を狙える剣士になれる」と話すとこぼれんばかりの笑顔で「頑張ります」と応えてくれました。

後日、再びお礼の為に訪問した際、校長先生から、「来年は入船小学校のトイレを中学生が行う企画でいこう」と言われた時はうれしさのあまり、飛び上がりたい心境でした。また、入船中学校の水耕栽培は全国に先駆けてモニターになっているとのこと。校長先生は工場長としてもお忙しい毎日ようです。学校のトイレをお借りすること自体並大抵のことではありませんが、管理職の理解者がいるだけで、スムーズにことが進みます。この浦安地区に加えて、習志野や市川（船橋は日本企画で定例的に実施）で定例会を開くことが出来れば、もっと、学校と社会のつながりが強くなり、秩序の乱れからくる現代病の道德教育の手助けにもなると思います。



認定 NPO 法人

日本を美しくする会・副会長

日本企画株式会社・社長

利 哲雄

大事なことを気づかせてくれたトイレ清掃

浦安市立入船中学校 石川裕基

今回、僕は京葉清掃に学ぶ会主催の「入船中学校をきれいにし美しくする会」に部活動のメンバーとして参加することになりました。始めはトイレ清掃をすることに関してあまり乗り気ではありませんでした。

当日、部活の友達と二階のトイレ清掃を行いました。校内は一度改装していたため、トイレがとてもきれいなことに京葉清掃に学ぶ会のみなさんは驚いていました。しかし、トイレ清掃を始めると見えないところに汚れが隠れていました。始めはみんな触れたくないと思っていたけれど、30分もしない内に真剣にスポンジを持って洗っていました。今回の体験で一番大変だったことは、中腰の状態で小便器を洗うことでとても疲れしました。いろいろな角度からこすることで汚れは落ちましたが、体をいろいろな方向へ曲げることでより体への負担が増えてしまいました。しかし、約2時間の清掃を終えると大変だった思いが達成感へと変わりとてもスッキリしました。

今回の体験を通して、トイレ清掃をすることで自分の心も磨くことができました。これだけ大変なことをしたあとにピカピカのトイレを見ると、今までに感じたことのない達成感を感じることができました。さらに先生からも京葉清掃に学ぶ会のみなさんからもほめられ、僕は改装したての時よりもきれいなのではないかと思ってしまいました。今回、京葉清掃に学ぶ会のみなさんの活動を通して、学んだことはふだん何気なく接している中に、大切なものがかくれている、ということです。トイレ清掃は学校生活の中にもあります。いつも何気なく取り組んでいるトイレ清掃ですが、気持ちを込めて取り組むといつもとはちがう感動が味わえる、ということはこの体験を通して学ぶことが出来ました。

京葉清掃に学ぶ会で剣道場を

浦安市立入船中学校 長江 花

私は、この京葉清掃に学ぶ会で、剣道場の女子部室のトイレを担当しました。女子部室と女子部屋のトイレは、もともとそんなに汚くないと言われてたんですが、歯ブラシ、サンドメッシュ、スポンジなどさまざまな物で清掃をしていくと、トイレの外はもちろん中までピカピカで綺麗になり、部室内のホコリもほぼなくなり、先輩方が残してくれた物も飾ってもらい、さらに水アカがすごかった鏡や流しもきれいになりました。

京葉清掃に学ぶ会の方々が出てきて下さった清掃道具の数が多くとても驚きましたが、リーダーが使う道具の使い方を教えてくださったので、清掃がしやすかったです。私はよく家でもトイレ清掃をするんですが、これほどまでも道具があり、何時間もかけて清掃するのは、初めてでした。私の家にはここまで道具はそろってませんが、今回で教えていただいた事を家に持ち帰り家でも少しずつ活用し、今回のような清掃ができればいいなと思いました。そして今回、同じ班になった部活の子そしてボランティアの方、リーダー・サブリーダーと清掃をしていると、だんだん清々しい気持ちになれました。最初は「トイレに素手を入れるなんて嫌だ」と思っていたんですが、どんどん綺麗になっていくにつれて、「さらに綺麗にしてやるぞ!」という気持ちになりました。

そして、一緒にトイレで活動してた方々がとてもやさしい人で、すごく良かったです。最初は、「怖い人だったら嫌だな」と思いながら友達と話していましたが、その真逆でした。「部屋がこんなにキレイなら、きっと剣道も強いんだろうね」とか、最後には「あなた方2人なら絶対に全国行けるよ、がんばってね」と言われました。本当にうれしかったです。私は今回この会でたくさんいろいろな事を学びました。これを日常でも活かせるようがんばっていきたいです。本当にありがとうございました。

「主婦の友ゴミ拾い」

小野 明子

8年前の菩提寺での新年会の時のことでした。健康づくりの話で盛り上がったところ、70代のSさん(男性)が「毎朝、ウォーキングをしているんですが、どうも道路のゴミが気になって・・・拾うのも人の目が気になるし・・・」と話始めました。すると隣の席にいた私の娘が、「それじゃあ一緒にゴミ拾いをしましょうよ」と言いました。娘は、新宿街頭清掃に何回か参加したことがありました。突然の娘の発案に私はすかさず「やりましょうよ。3人で一緒にやれば、恥ずかしくないですよ」と弾んだ声で言いました。そして日時の約束をして別れました。

平成20年1月7日は、寒い朝でした。8時にSさんの家の近くのゴミ収集所に行き、近隣の小学校、中学校、高校の周辺を拾いました。通り道に神社もあり、正月明けで、参拝者が落としたと思われるゴミもいろいろありました。3人がそれぞれ大袋いっぱいゴミを収集所に持ち寄りました。分別、整理してSさんに回収日に出していただくことにして帰宅しました。

その後月1回のゴミ拾いを実践していましたが、娘は勤めにでたのでできなくなりました。その事を団地内の『主婦の食事会』で話したところ、3人が仲間に入ってくれました。男性1人を含め、5人での活動が始まりました。終了時刻を確認してふた手に分かれてゴミを拾い、持ち寄ったゴミの分別、整理をしてから、Sさんをお願いして帰りました。

主婦たちは、「なんでこんなに捨てるのかね」「外から来た車が、駐車して休憩した後みたいで、弁当の空き箱や、食べ残しが散らばっていたね」「汚れていて、気持ちが悪くないのかな」上気した顔で口ぐちに文句を言い合います。顔を見あわせて、ため息も出ました。

そのうちに、Sさん(男性)が体調を壊して参加できなくなりました。代わりにSさんの近くの主婦がメンバーになりました。ゴミ収集所の近くの方で助かりました。

その後、主婦たち5人の毎月1回のゴミ拾いが定着しました。私は「日本を美しくする会作製の黄色い帽子」を全員に配りました。それには、『ひとつ拾えばひとつだけきれいになる』と言う文字が入っています。田舎のメイン道路で、ゴミ拾いする朝の時間帯には、車の数も多く、車はかなりのスピードをだしています。急カーブの所は、木や草で見通しが悪く危険です。いつも車の気配を気にして、はらはらしながら走るようにして拾っています。私が日本を美しくする会の黄色いジャンパーを着て、車の見張り役もします。

こうして開始してから8年目になりました。無事故で活動していることが何よりも有難く嬉しい事です。時には、車を止めて「ご苦労様です」「なかなか人の出来ないことしてくれて、頭が下がるよ」と声をかけて下さる方もいました。お茶とおだんごの差し入れもありました。

27年3月に100回目を迎えました。記念に予約しておいた民家ギャラリー『赤い屋根』で、コーヒータイムをとりました。オーナーが喜んで迎えてくれました。館内の展示を観てから、外の自然庭園を見ながら歓談しました。オーナーの好意で戴いたケーキの甘さと温かいコーヒーの味が心に残りました。

28年3月に112回目になりました。いつものコースを歩きました。2、3日前に車で通った時には散在していたゴミが、ほとんどありません。みんなで「変だね」「不思議だね」「きっと誰かが拾ってくれたんだよ」これまで一度もなかったゴミの少ない量に驚きながらも、こんな日がいつになったらくるのだろうかと思いました。中味の少ないゴミ袋を自宅に持ち帰り、5年前から片付けをしてくれる夫に処理をお願いしました。次回の4月には、ゴミはどうなっているのだろうかと思いながら。カレンダーを見て予定日を決めました。

オリンピックを控え、日本中のゴミが少しでもなくなり、真の美しい日本になってお客様をお迎えしたいものです。

今後も健康に気をつけながら、主婦の友ゴミ拾いを末永く続けていきたいと思っています。

鍵山様 (日本を美しくする会相談役・千葉を美しくする会顧問)は“主婦の友ゴミ拾い”の寄稿を見て下さりつぎのようにコメントして下さいました。

〔その1〕 ゴミ拾いをする地域に絶大なる信頼関係が生まれ、人との横のつながりが出来ます。そして心と心がつながって来ます。

〔その2〕 おもてなしの心でオリンピックを! と言うけれど、その為の1つの行動は小野先生達がやっている活動そのものです。この行動は決してちいさな事ではなく、とても大きな事なのです。おもてなしの大事な1つは、ゴミの無い“美しい街”の事なのですから。

〔その3〕 定年後の生き方として自分だけの享楽を追い求めるのは、余りにも寂し過ぎます。それまで体験した幸せの何分の1かでも社会にお返しする時です。それも手足を使って。そんな生き方を心がけると自分自身が救われるものです。

最後にこの寄稿を読んで下さった後、小野先生達の活動が目に見えて来ますと言われ、さらに鍵山様は、頭がさがります、と申されこうべを下げられたのでした。

編集後記

この春特集号は、特別な感じがいたします。普段なら鍵山相談役のお名前も元総理野田様のお名前も利副会長のお名前も上がっては来ないのです。鍵山様には“主婦の友ゴミ拾い”の寄稿の内容について、是非ともお言葉を頂きたかったのです。野田様には過日の総会の議長職を務めて頂きました。野田様は、私共の会発足当初よりの会員であり、また総理在任の前後には、心のこもる励ましの祝辞を、総会に対して寄せてくれていました。有難い事でした。利様には認定NPO 法人日本を美しくする会副会長としての立場から、京葉掃除に学ぶ会入船中大会を講評してもらったのでした。このようにお三方のご登壇によって、私共NPO 法人千葉を美しくする会の活動がより幅広く捉えていただけたのではないかと思います。

これを励みに今後とも益々、皆様と共に良い会にして行かなくてはならないと思います。



上記写真は総会会場にて

